

## Ⅱ 最近の世界における食料需給の動向

## Ⅱ－１ 穀物等に関する国際価格の動向

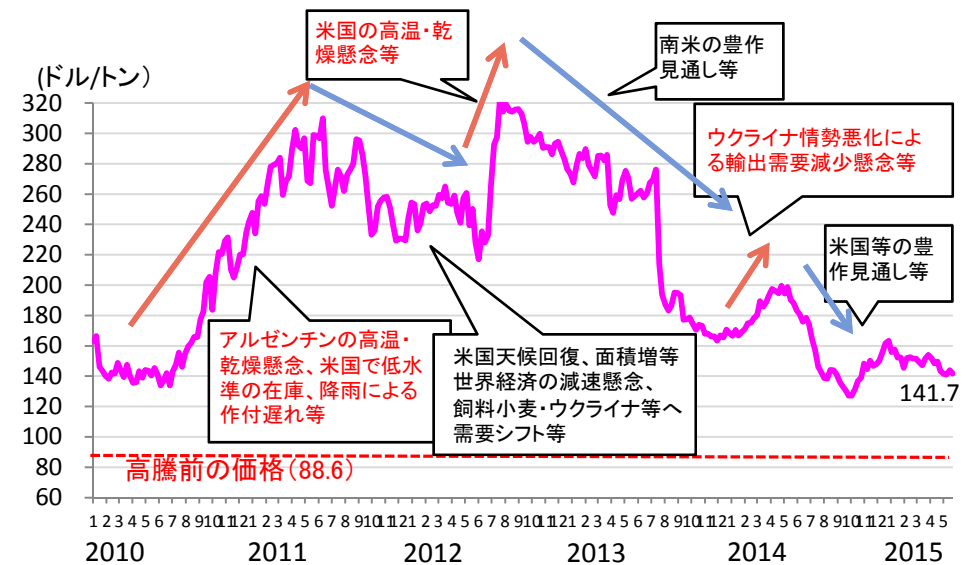
【図１】小麦価格の推移

2012年10月以降、下落傾向にあるものの、依然高値で推移



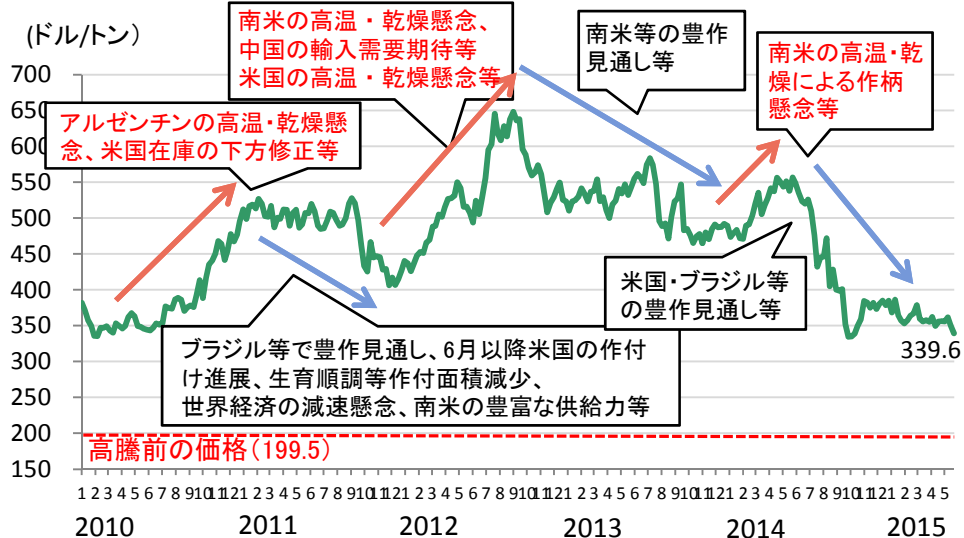
【図２】とうもろこし価格の推移

2013年7月後半、新穀の需給緩和見通しにより大幅に下落も、依然高値で推移



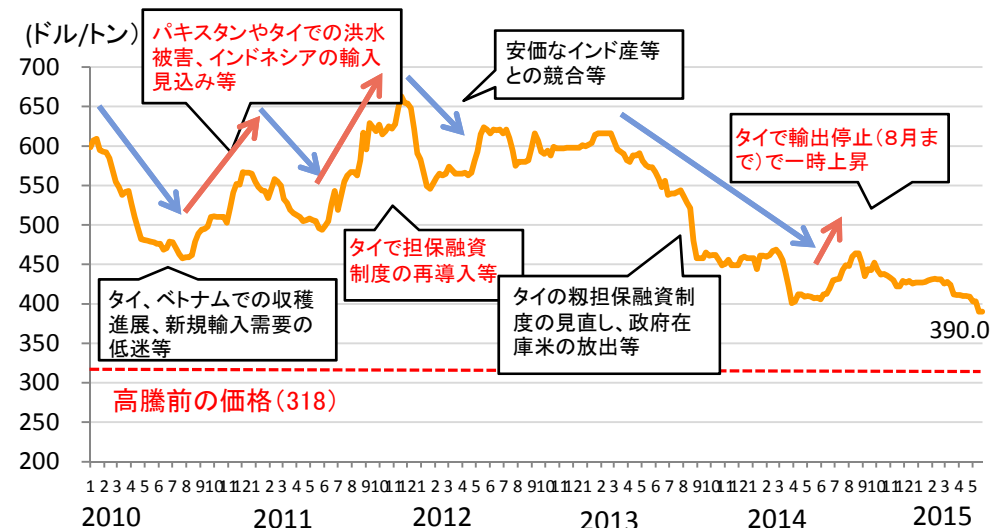
【図３】大豆価格の推移

2013年7月後半、新穀の需給緩和見通しにより下落も、依然高値で推移



【図４】米価格の推移

2013年7月以降、タイの粗担保融資制度の見直しの動きや、政府在庫米の放出等から下落も、2014年5月以降、タイ政府による輸出停止により一時上昇



注：小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ商品取引所の毎週金曜日の期近価格。米は、タイ国家貿易取引委員会公表によるタイうるち精米100%2等のFOB価格である。  
高騰前の価格は、2006年8月25日の価格である。（ただし、米は2006年8月30日の価格）

## Ⅱ－２ 穀物市場を取り巻く各種経済動向

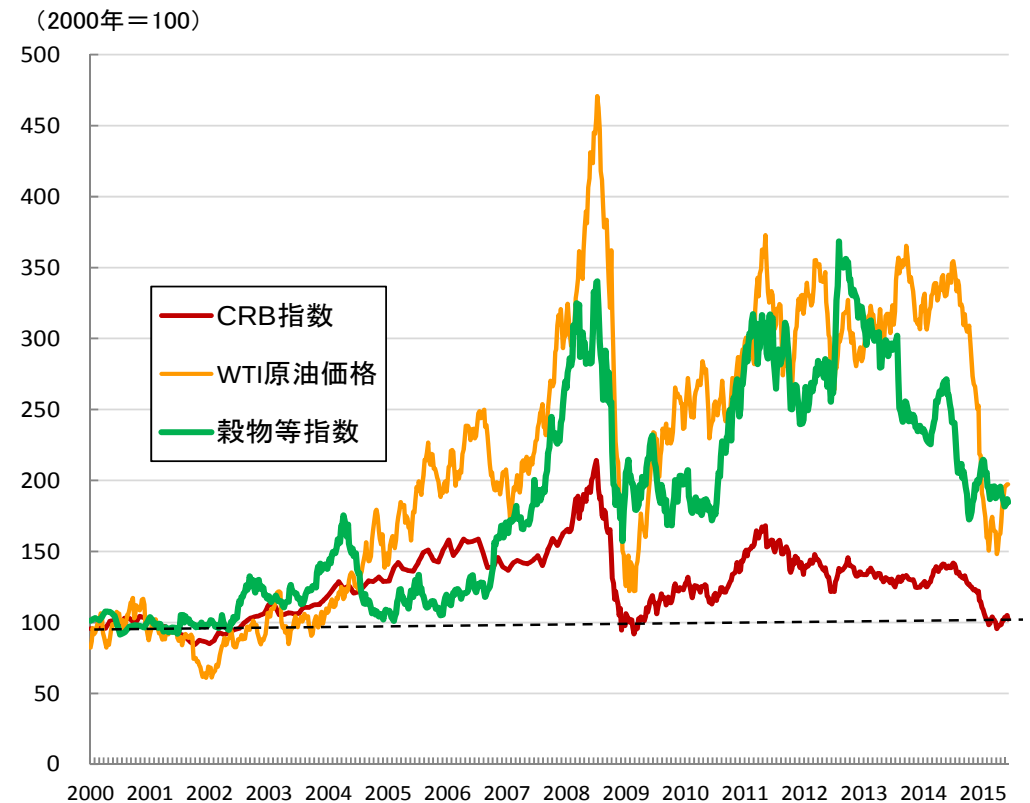
- 1 2007年8月以降、サブプライムローン問題に関連した欧米の金融市場の混乱が続き、2008年9月の米国大手投資銀行の破綻を契機として「世界金融危機」が発生。投機資金の急激な流出、世界的な不況による消費全体の減退懸念などにより、商品価格が大幅に下落。
- 2 その後、2009年2月頃に底を打った後は景気回復への期待感などにより、商品価格は再上昇したが、2011年半ば以降、世界経済の減速に伴い、商品価格は横ばいで推移、直近では原油価格の影響などにより下落。株価は米国の景気回復等が見込まれて上昇。原油価格は上下を繰り返す展開であったが、直近は下落傾向。

【図1】株価（NYダウ平均）の推移



出典：ロイターES時事 注：NYダウ工業株30種平均株価の毎週火曜日の終値である。

【図2】商品指数(CRB指数)、原油価格等の推移



出典：ロイター/ジェフリーズ、ロイターES時事、U.S. Energy Information Administration

注：ロイター/ジェフリーズCRB指数は、毎週金曜日の指数。WTI原油価格は週平均価格。穀物等指数は、シカゴ商品取引所3商品価格（小麦、とうもろこし、大豆）を平均して指数化。

【図3】ドル指数とCRB指数の推移

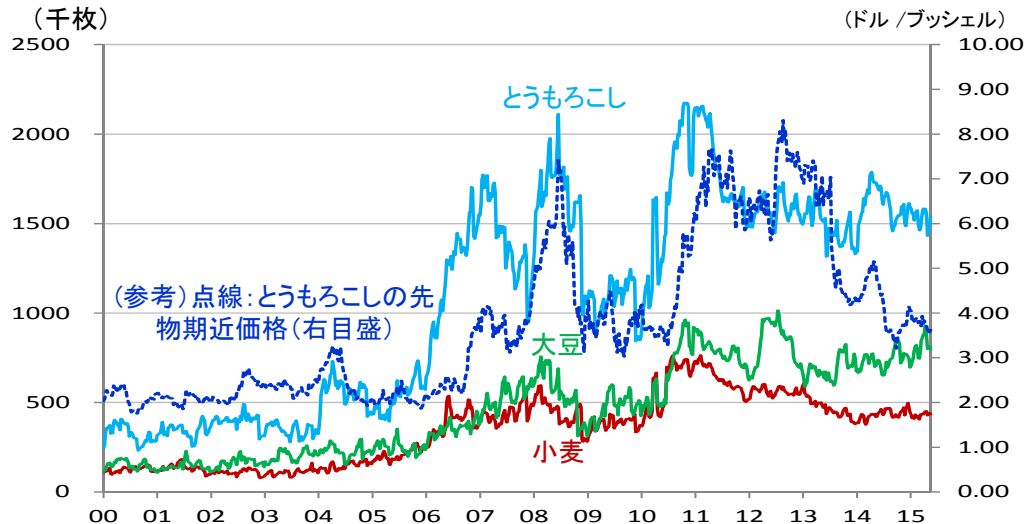


出典：ICE「US Dollar Index®」ロイター/ジェフリーズ 注：ICE（インターコンチネンタル取引所）ドルインデックス先物の毎週金曜日の終値である。CRB指数は、図2注参照。

## Ⅱ－２（参考） 穀物市場における投機家による先物取引の推移

- シカゴ商品取引所における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移し、直近の投機家による買越枚数は、小麦・とうもろこし・大豆ともに減少傾向。

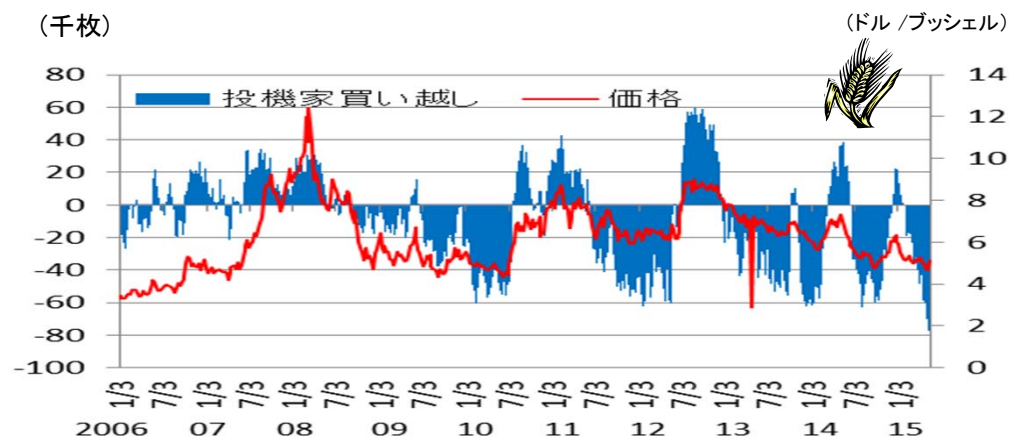
【図１】 投機家の穀物等の取引総枚数（注）の推移（CBOT）



資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成

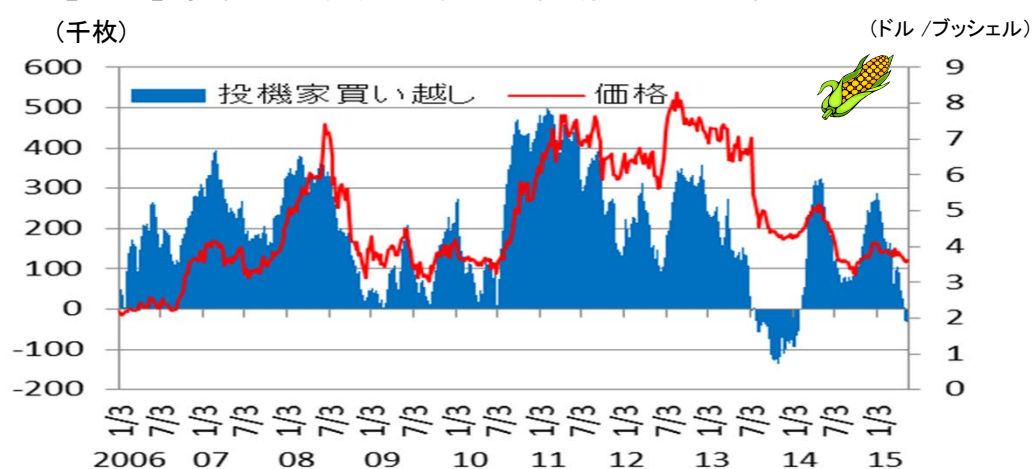
注：取引総枚数は、投資家(NonComm)による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図２】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（小麦）

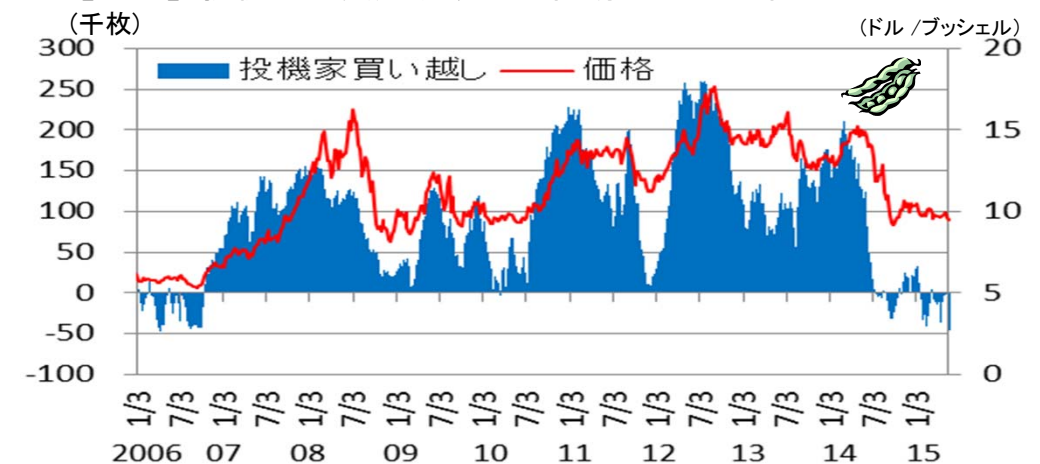


資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2015年5月第4週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

【図３】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（とうもろこし）



【図４】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移（大豆）

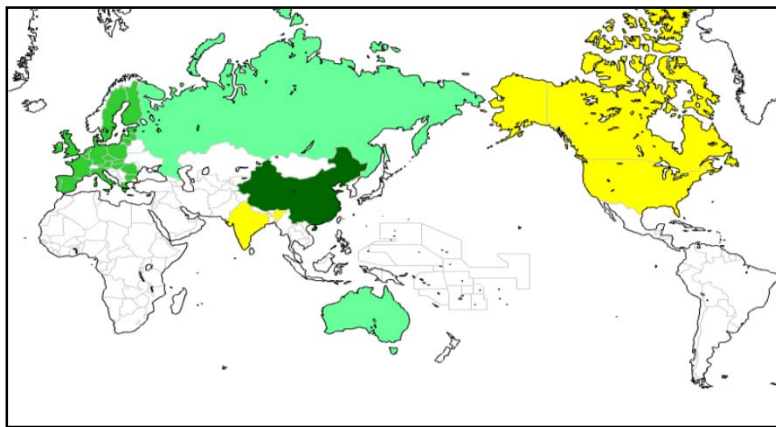




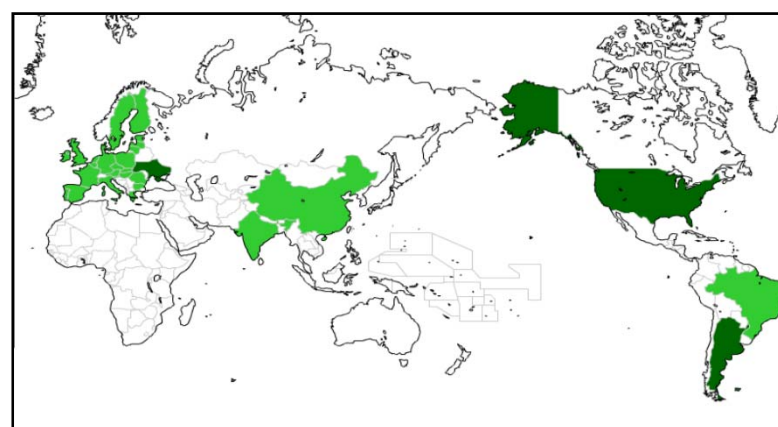
## Ⅱ-3 穀物等の主要生産国の作柄(単収の過去5年平均との対比、2015年5月時点)

2015/16年度の主要生産国における穀物等の作柄については、【小麦】中国は、良の見込み。EUは、やや良の見込み。ロシア及び豪州は、平年並みの見込み。インド、カナダ及び米国は、やや不良の見込み。【とうもろこし】米国、アルゼンチン及びウクライナは、良の見込み。ブラジル、EU、中国及びインドは、やや良の見込み。【米】ミャンマーは、良の見込み。中国及びベトナムは、やや良の見込み。インド、インドネシア、バングラデシュ及びタイは、平年並みの見込み。【大豆】アルゼンチン及びパラグアイは、良の見込み。米国及びブラジルは、やや良の見込み。中国、インド及びカナダは、平年並みの見込み。

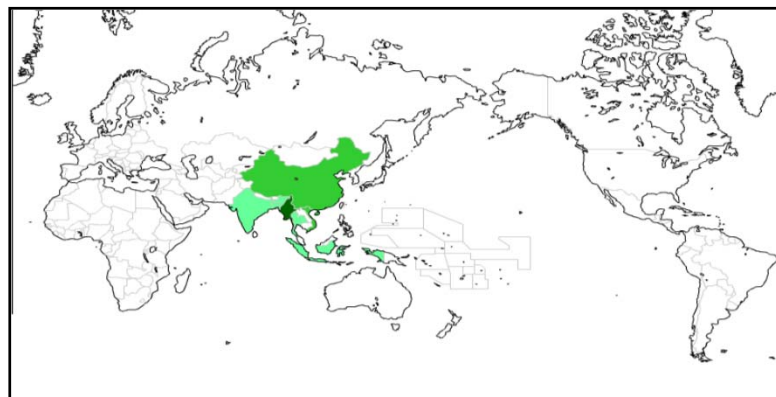
【図1】小麦



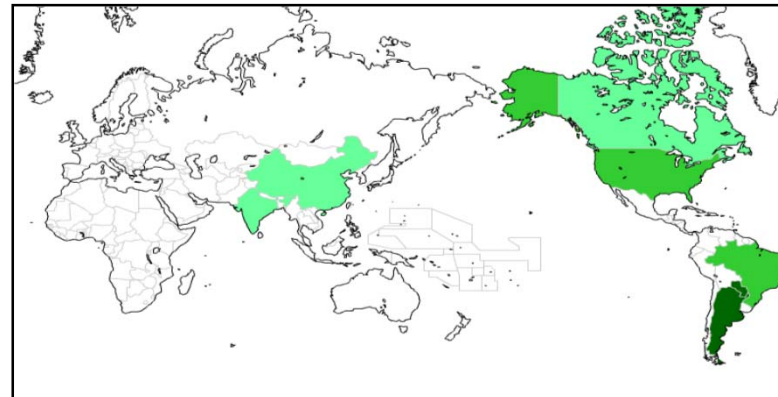
【図2】とうもろこし



【図3】米



【図4】大豆



※ 気象庁は、2015年5月12日付けのエルニーニョ監視速報(No. 272)で、「エルニーニョ現象が発生しているとみられる。今後、秋にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。」と発表した。

資料：米国農務省「P S & D」(2015. 5)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

## Ⅱ－4 中国の旺盛な穀物等の輸入需要

- 大豆の輸入量は、搾油需要等の増大により増加。2015/16年度の輸入量は、前年度を上回る7,750万トンと予想され、世界全体に占める輸入シェアは65%と前年度と比べ拡大する見込み。
- とうもろこしは、飼料需要等の増大により、2009/10年度以降輸入に転じたが、2013年11月より未承認遺伝子組換え種問題で米国産の輸入を拒否したが、2014年12月に米国産の輸入を再開。2015/16年度の輸入量は、前年度並みの300万トンの見込み。
- 小麦の輸入量は、2013/14年度は製粉用小麦の国内供給ひっ迫に伴い急増したが、需給の緩和により減少した2014/15年度に続き、2015/16年度の輸入量は120万トンに減少する見込み。

【表1】大豆主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

|      |     | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国   | 輸入量 | 59.9    | 70.4    | 73.5    | 77.5    |
|      | シェア | 62.4    | 63.2    | 64.4    | 64.8    |
| EU   | 輸入量 | 12.5    | 13.0    | 12.8    | 12.8    |
|      | シェア | 13.1    | 11.7    | 11.2    | 10.7    |
| 日本   | 輸入量 | 2.8     | 2.9     | 2.9     | 2.9     |
|      | シェア | 3.0     | 2.6     | 2.5     | 2.4     |
| 世界全体 | 輸入量 | 95.9    | 111.3   | 114.1   | 119.6   |
|      | シェア | 100.0   | 100.0   | 100.0   | 100.0   |

資料:USDA「PS&D」(2015.5)

【表2】とうもろこし主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

|      |     | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国   | 輸入量 | 2.7     | 3.3     | 3.0     | 3.0     |
|      | シェア | 2.7     | 2.6     | 2.6     | 2.5     |
| EU   | 輸入量 | 11.4    | 15.9    | 8.0     | 12.0    |
|      | シェア | 11.5    | 12.7    | 6.9     | 10.1    |
| 日本   | 輸入量 | 14.4    | 15.1    | 15.4    | 15.2    |
|      | シェア | 14.5    | 12.1    | 13.3    | 12.8    |
| 世界全体 | 輸入量 | 99.1    | 125.0   | 115.4   | 118.7   |
|      | シェア | 100.0   | 100.0   | 100.0   | 101.0   |

資料:USDA「PS&D」(2015.5)

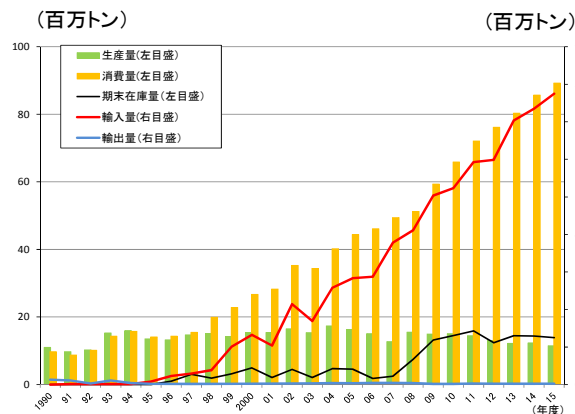
【表3】小麦主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

|      |     | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国   | 輸入量 | 3.0     | 6.8     | 1.5     | 1.2     |
|      | シェア | 2.0     | 4.2     | 0.9     | 0.8     |
| エジプト | 輸入量 | 8.3     | 10.2    | 11.1    | 11.3    |
|      | シェア | 5.7     | 6.3     | 7.0     | 7.3     |
| 日本   | 輸入量 | 6.6     | 6.1     | 5.8     | 5.8     |
|      | シェア | 4.6     | 3.8     | 3.6     | 3.8     |
| 世界全体 | 輸入量 | 144.7   | 160.2   | 159.2   | 154.0   |
|      | シェア | 100.0   | 100.0   | 100.0   | 100.0   |

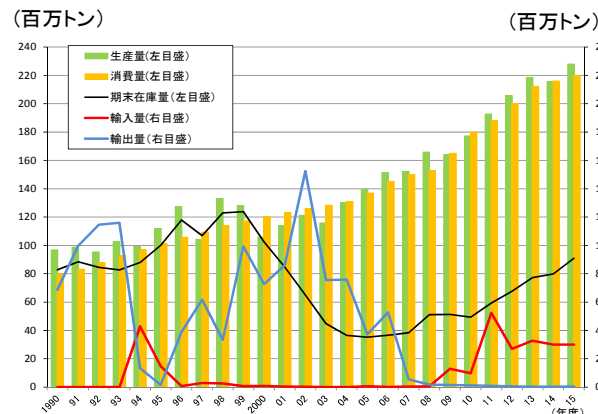
資料:USDA「PS&D」(2015.5)

【図1】中国の大豆の需給の推移



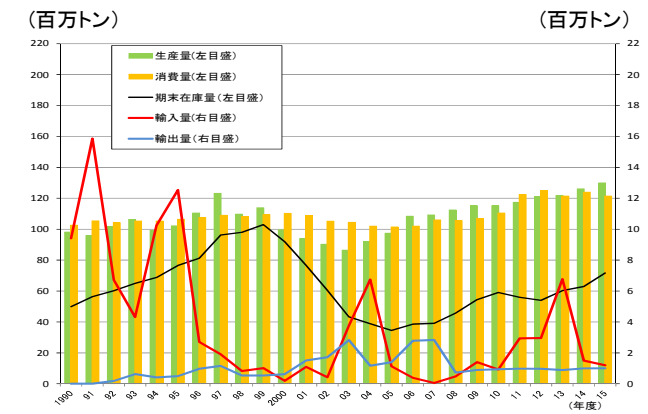
資料:USDA「PS&D」(2015.5)を基に農林水産省にて作成

【図2】中国のとうもろこしの需給の推移



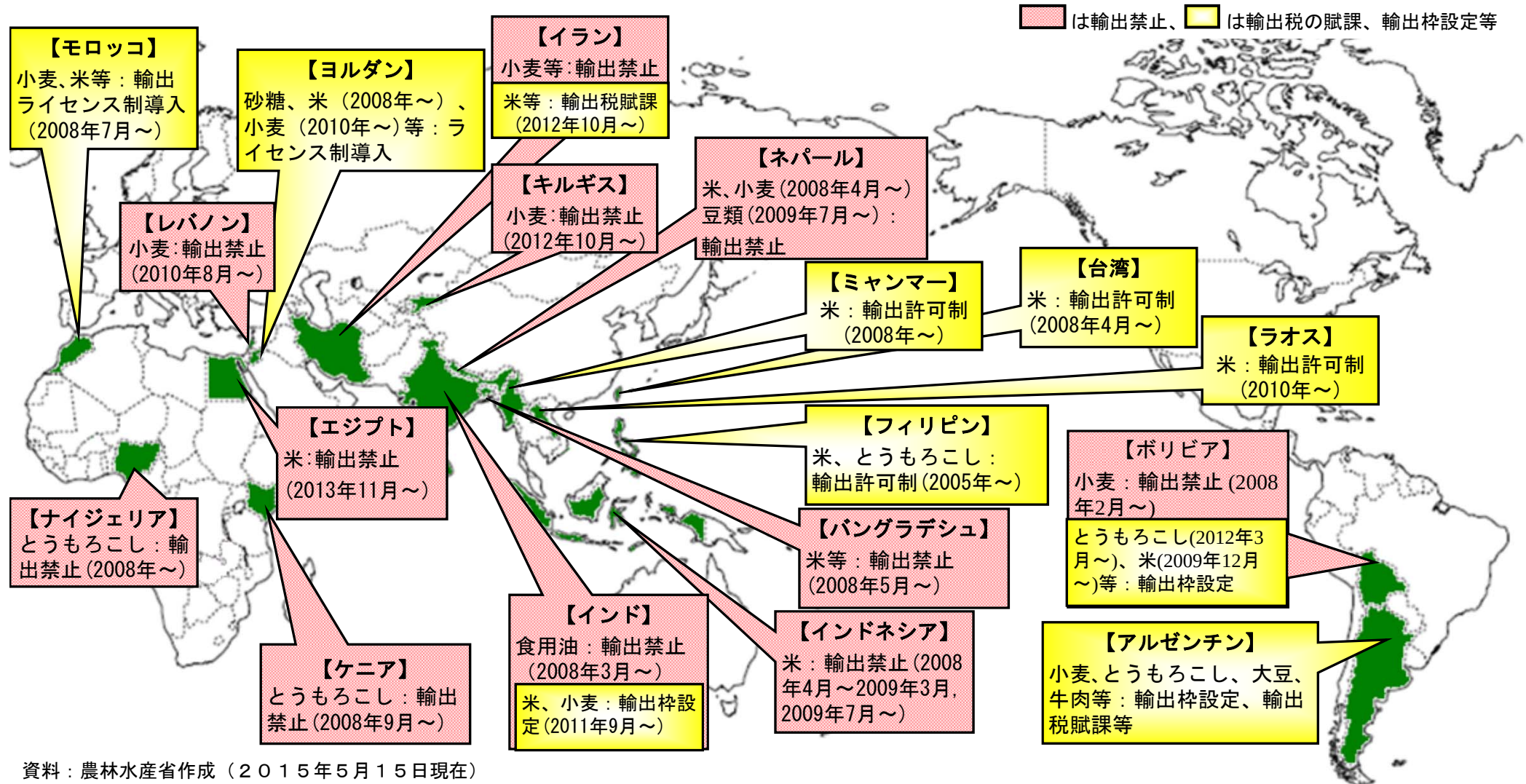
資料:USDA「PS&D」(2015.5)を基に農林水産省にて作成

【図3】中国の小麦の需給の推移



資料:USDA「PS&D」(2015.5)を基に農林水産省にて作成

## Ⅱ－6（参考）農産物の輸出規制の現状



資料：農林水産省作成（2015年5月15日現在）

- 注：過去に実施された措置
- ① 輸出禁止：カンボジア（コメ）、ベトナム（コメ）、ラオス（コメ）、インド（コメ、小麦、とうもろこし）、パキスタン（小麦）、アルゼンチン（小麦等）、ブラジル（政府米）、ボリビア（とうもろこし、コメ等）、エクアドル（コメ）、ホンジュラス（豆類、とうもろこし）、ロシア（小麦等）、カザフスタン（小麦）、セルビア（小麦等）、ベラルーシ（菜種等）、モルドバ（小麦）、ブルキナファソ（穀物）、コートジボワール（カカオ）、エチオピア（小麦等）、ギニア（農林水産物）、マラウイ（とうもろこし）、タンザニア（穀物、砂糖）、ザンビア（とうもろこし）
  - ② 輸出税賦課：ロシア（小麦、大麦）、ウクライナ（小麦等）、ベトナム（コメ）、キルギス（小麦等）、中国（小麦、大豆、コメ等）、アルゼンチン（乳製品）
  - ③ 輸出枠：カンボジア（コメ）、ウクライナ（小麦、大麦等）